

属人区長のメッセージ （2019年7月12 日）

アメリカ合衆国とカナダへの
司牧旅行にあるオカリス神父
は、聖徒の交わりが持つ力に
ついて記し、どこにいても互
いに助け合い、支え合えるこ
とを思い出させます。

2019/07/12

愛する皆さんへ。イエスが私の子どもたちを守ってくださいますように。

ローマを出発してからというもの、
聖徒の交わりの素晴らしさを神に特
別な思いで感謝しています。私たち
はお互いに物理的な近さよりも、よ
り近くにいることを信仰によって確
信しています。

一つの場所に到着する時に感じるこ
とですが、まるでいつも一緒にいた
かのように思えるのです。そして、
その場所を後にする時にも同じこと
を感じます。別れの挨拶は、別の形
で一緒にいることに気づかせてくれ
ます。いつも私たちは自分の家にい
るのです。どこにいても、オプス・
デイを実現し、教会に仕えることが
できるのです。

困難な時にも、互いに堅く一致させ
るこの現実に見いだすことができ
ます。それは、それぞれがイエ
ス・キリストと一致している結果な
のです。

聖ホセマリアがホンジュラス公使館で書き留めた言葉を思い出します。まったくなす術のなかった時期のもので、「私はいつも自分がいる場所から500キロ離れたところにいる」（1937年4月30日）。このように記すことができたのは、彼が近くにいない人々にも固く一致していたからです。

アメリカ合衆国とカナダの旅行中、皆さんの祈りの支えと喜びを頼りにしています。私もまた皆さんに寄り添います。特に、ミサにおいて一緒にいることを思い出しましょう。

心からの愛情を込めて祝福を送ります。

あなたがたのパドレ

フェルナンド

ニューヨーク、2019年7月12日

.....

ダウンロードPDF形式

ダウンロード原語PDF形式

.....

pdf | から自動的に生成されるドキュメント <https://opusdei.org/ja-jp/article/zokujinkucho-messeji-2019-7/>
(2026/04/02)